

## ■ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル

今年で31回目を数えるニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル日本ツアー2016公演が、7月14日にアクロス福岡のシンフォニーホールで行われました。

この公演は、アジア太平洋子ども会議・イン福岡と国連ハビタット福岡本部を支援するコンサートとして毎年パナソニックが主催して行われています。

今年の公演も、音楽の楽しさや魅力を伝える素晴らしい音色がホール全体に広がりました。沢山の子どもや大人からなる観客を魅了しました。印象に残った演奏としてはブルック作曲のロマンスで、珍しくピオラと管弦楽のための名曲で、ゆったりとしたテンポと暖かい音色で魅了されました。その他では、サラサーテ作曲の超絶技巧のバイオリン曲であるツィゴイネルワイゼンで、ブルガリア生まれのゲオルギイ・バルトチェフは現在マドリッド交響楽団及びニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルのコンサートマスターをしており、毎年来日しておりますが、彼はこの難曲を苦も無く弾きこなし情感豊かに表現してくれました。アンコール曲を3曲、最後はいつものようにエルガー作曲の「威風堂々」を弾いてくれました。観客は魅了されなかなか拍手が鳴りやまなかった。至福の2時間半でした。(佐竹芳郎)



## ■国連ハビタット福岡本部を囲むタベ

7月29日国連ハビタット福岡本部を囲むタベ(国連ハビタット福岡本部協力委員会懇談会)が、福岡県知事公舎で行われ、市民の会からは5人で出席致しました。

開会のあいさつは福岡県知事の小川洋氏、乾杯のご挨拶は国連ハビタットナイロビ本部から来福したアリウン・パティエン事業統括部長がなされました。



## 編集後記

シンポジウムでは、多くの高校生や大学生が参加され、国連や国際協力組織などに務めるための具体的な方法などお話をきく事が出来、今後の進路の視野に入れたのではないかと思います。また、社会人であっても、可能性を感じた方、視野を広げることが出来た方、関心のある人に伝えようと思った方などいたのではないのでしょうか。福岡では、身近なところで国連組織があり、より実感できる環境にあるのではないかと思います。これから猛暑が続くようなので、熱中症にならぬようお体に気をつけてお過ごしください(前田直樹)

出席された方は、国連ハビタット福岡本部の深澤本部長をはじめとして国連ハビタット職員の方々、日本ハビタット協会会長の中村徹氏、外務省地球規模課題総括課の西岡課長と吉川氏、他にも株式会社九州電力の橋口氏や、株式会社大建代表取締役の松尾氏、貞刈副市長など国連ハビタット福岡本部を支援する方々が揃いました。

みなそれぞれの歓談が行われ、市民の会と協力委員会の方々との交流が行われました。

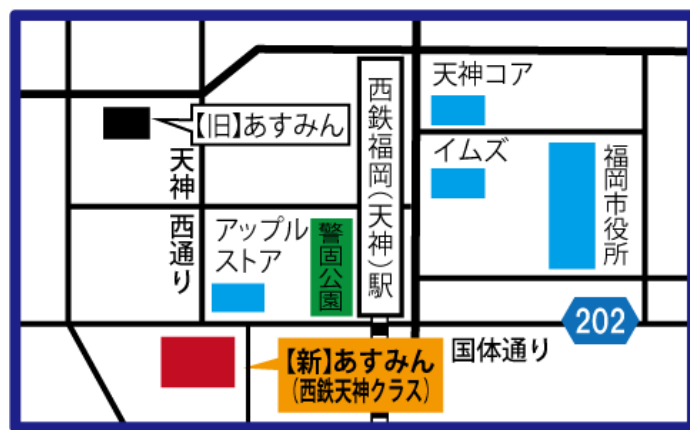
九州で唯一の国連機関である「国連ハビタット福岡本部」はさまざまな企業や行政の支援の元にあると改めて思いました。(前田直樹)

## ■定例会会場について

会場は、西鉄福岡(天神)駅より国体道路を警固方面へ進み、アップルストアの向かい側(天神西通りとの交差点)、1階にソニースタアがある「西鉄天神クラス」という建物の4階に入ります。

お間違いのなきようよろしくお願いします。

住所：福岡市中央区今泉 1-19-22 西鉄天神クラス 4階



## ■今後のスケジュール

- 9月21日(水) 定例会
  - 10月1日(土) ハビタットひろば
  - 10月2日 ハートフルフェスタ
  - 10月3日(月) 世界ハビタットデー
  - 10月19日(水) 定例会
  - 11月30日 地球市民どんたく
  - 11月16日(水) 定例会
  - 12月14日(水) 定例会※第2水曜日
- ☆日程は、変更になることがあります。  
直前に、Facebookやメールでお知らせします。  
☆定例会は、原則として毎月第3水曜日 19:00~21:00に行います。

## 事務局・お問い合わせは

郵便物のあて先は：  
〒838-0134 小郡市下西郷坂 1493 牟田慎一郎宛  
お問い合わせは：  
TEL：090-6770-2481(牟田)  
FAX：0942-41-2080  
E-mail：muta@ktarn.or.jp  
Facebook：ハビタット福岡市民の会  
HomePage：http://cnhf.web.fc2.com



### 48号の主な内容

- 若者よ国連をめざせ！  
～国際機関で働くためには～
- ハビタットひろば
- ニューヨークシンフォニックアンサンブル
- 国連ハビタット福岡本部を囲むタベ

第48号  
http://cnhf.web.fc2.com

## ■「若者よ国連をめざせ」～国際機関で働くためには～



2016年7月24日(14:00~16:00) あいれふ 10Fにてシンポジウム「若者よ国連をめざせ」～国際機関で働くためには～を主催しました。

この企画は日本ハビタット協会福岡支部、福岡 United Children の協力、国連ハビタット福岡本部の後援により開催しました。

この企画の発端は、日本は国連機関に約7%の資金を供給しているにもかかわらず、国連機関で働く日本人職員の数で見ると約2%程度に留まっている現状を踏まえ、今後、世界を担ってゆく若者が、自国のことのみならず、海外も意識し、国際的な役割を担ってほしいという思いから始まったもので、国際機関や国際問題に関心のある高校生や大学生を中心に多数の方々が出席してくださいました。

第3回目となる今回は、萩野 敦年氏(外務省 国際人事センター課長補佐)をお招きし、「国際機関で働くためには」をテーマに講演していただきました。

第1部の基調講演では、萩野敦年氏より「日本人が国際機関職員になるための主な方法」として、①「空席広告」、②「JPO 派遣制度」、③「YPP」について詳しく説明してくださいました。

①空席広告は、国際機関職員の退職や転任またはポストの新設によって欠員が生じた場合に各国際機関のウェブサイトに掲載されるもので、所定の応募用紙を各国際機関のウェブサイトから入手し、オンラインで応募する方法のこと。空席広告は2週間毎に主な国際機関の最新の空席情報が更新されているので、自分から積極的に情報収集を行う必要がある。なお、書類選考を通過すると面接に進むこ

とになり、ほとんどの場合が電話による英語での受け答えという内容のもの。なお、空席広告による募集は全世界におよぶため、人気のあるポストであれば、数百人に一人といったケースもあるそうです。

②JPO(ジュニア・プロフェッショナル・オフィサー)派遣制度は、将来的に国際機関で正規職員を志望する若手の日本人を対象に、国が派遣に係る経費を負担し、原則2年間各国際機関へ職員として派遣し、正規職員で勤務してゆくための知識や経験を習得する機会を提供する目的で外務省が実施する制度のこと。JPOのメリットは、日本人を対象としていることから空席広告と比較して競争率が低いということ(概ね5人中1人)、派遣期間中に国際機関で働く方々と人脈を形成することができる点が挙げられる。なお、JPOとして派遣されるためにはJPO 派遣候補者選考試験に合格する必要がある、「国際機関で勤務するという強い気持ち」が最も重要な要素であり、自分が国際機関で働くためにどのような経験を積んできたのか、どのように専門性を磨いてきたのかを一貫性をもったストーリーを描き、それを応募書類に落とすことがポイントとの説明がありました。



③YPP(ヤング・プロフェッショナル・プログラム)とは、国連事務局が若手職員を採用するために行うプログラムで、応募資格は上記の表のとおり職務経験がなくても応募が可能と間口が広がっている反面、募集対象の職種が毎年異なるという難点もあることから、はじめから YPP で国際機関職員を目指すのではなく、JPO で国際機関職員を目指しながら、YPP で自分の専門性を活かせる職種が募集対象となった場合に応募するといった方法が良いとのアドバイスをいただきました。なお、YPP の応募資格では職務経験は不問とされているが、職務経験なしで採用された事例は現時点ではなく、試験もある程度専門性を問われる内容になっているそうです。

	① 空席広告	② JPO 派遣制度	③ YPP
実施機関	各国際機関	外務省	国連事務局
年齢制限	特になし	35歳以下	32歳以下
学歴	修士号以上	修士号以上	学士号以上
職歴	2年以上	2年以上	問わない
ポイント	随時応募が可能	倍率が低い	学士号のみで応募可能

このほかにも、講演等でよく聞かれる質問として、「何をすれば良いか」という例を挙げ、英語圏への留学や積極的なセミナーへの参加(情報収集)、インターンといった例を挙げ、国際機関で働くための準備やキャリアを蓄積することの重要性について説明して下さり、また、履歴書の記載方法についてのアドバイスもいただきました。

第2部のパネルディスカッション「私はこうして国連職員になった」では、パネリストに基調講演を行っていただいた萩野 敦年氏と高林 博史氏(国連ハビタット アフガニスタン事務所 Knowledge Management Officer)、廣畑 和祥氏(国連開発計画 バングラデッシュ事務所 モニタリング・評価オフィサー)を、高校生代表に福岡 United Children から三宅 凜さん、尾澤 あかりさんに加え、江藤美沙さん(ハビタット福岡市民の会)のコーディネートにより進められました。



高林 博史氏は、大学時代のルワンダ大虐殺が国連職員になったきっかけのひとつであったこと、院卒と同時に JICA に就職し、東南アジアを中心とした活動を進めていく中で、徐々に紛争地で働きたいという気持ちが高まってきたこと、そして空席広告により現職に至ったことを話してくださいました。

「国際社会が混沌とし、テロなどのリスクが高まっている状況下、海外で働くということをごどのように受け止めているのか」という高校生からの質問に対し、「テロなどの脅威を国連の力で根本的に解決できるか否は別として、そのような状況だからこそ現地の人々と一緒に活動を行って

ゆく必要があります、そのために私はここにいる。」と力強く答えてくださいました。



また、北九州市出身の廣畑 和祥氏は東京の大学へ進学するまでは、地元から離れたことがなかったそうです。そしてその反動から海外で働きたいという気持ちが高まってきたこと、大学在学中に海外留学や NGO の設立など経験を積んできたこと話してくださいました。廣畑 和祥氏はまた、国際機関で働くために何をやるかではなく、自分がやりたいこと、興味があることを追求することで専門的な知識を身に付け、国際機関を通してその能力を発揮するという考えも重要だと話してくださいました。

高林 博史氏、廣畑 和祥氏とは現地とスカイプ中継によりパネルディスカッションを行いました。紛争問題やテロといった過酷な環境のもとで活動する国連職員の生の声は緊張した会場内に広がり、10代・20代の若者の心に深く刻まれたように感じられました。(坪根義徳)



#### ●若者よ国連を目指せ！懇親会

7/24「若者よ国連を目指せ！～国際機関で働くためには～」シンポジウムの後、あいれふ 1F 喫茶・レストラン「オアシス」にて懇親会がおこなわれました。冒頭、牟田代表の乾杯発声の後、講師含め総勢約 30 名の方々が 4 つのテーブルにて分かれ食事を楽しみながら意見交換を行いました。シンポジウムで基調講演をされた外務省国際機関人事センター課長補佐である萩野さんの周りには国連・国際機関で就職を希望する大学生が集い、国際機関への就職状況や、将来の進路についての質問を投げかけ、また萩野さんも一つ一つ丁寧に答えていらっしゃいました。

京都、佐賀、大分等から来られた大学院生や公務員、様々なバックグラウンドの方々が集い熱心に耳を傾け、互いの情報交換等も行っていました。

スタッフのメンバーも食事を楽しみながら互いに講演会の労をねぎらい、高校生参加者はジュースを飲みながら将来の進路を熱く語っていらっしゃいました。留学志向や海外キャリア志向の方々が多く集まっていたようです。

食事はじゃこ飯、鶏肉、レンコン・コンニャクの揚げ物、サラダ等であり美味しかったです。



互いのバックグラウンドの違いや海外の話をしているうちに冗談を言い合うほど仲良くなり、時間もあっという間に過ぎ去っていきました。興味のある海外話で盛り上がり、二次会にいかれた方々もいらっしまった様でした。

夏の盛りの夕方、シンポジウム講演会後の嬉しいひと時を過ごすことができました。(山前隆)

## ■ハビタットひろば

### ●第32回『福岡方式』アフリカへ Part II

国連ハビタット福岡本部と(公財)福岡県国際交流センターによる合同レクチャーシリーズ「ハビタットひろば」が、2016年6月1日18:30~19:30にアクロス福岡3階こくさいひろばで開催された。

今回のテーマは『福岡方式』アフリカへ Part II である。「福岡方式」の世界への普及に努めておられる福岡大学工学部社会デザイン工学科の松藤康司教授がケニアのキャンプ県で実施した事業の完成報告と今後の展望を話されました。

「福岡方式」によるゴミ埋立は、汚水やメタンガス放出をなくし、透明な水と CO<sub>2</sub> を排出する環境に配慮した埋立方式である。国連ハビタット福岡本部は技術に注目し、福岡市と福岡大学と連携してアジアやアフリカの国々に紹介するなどその普及に努めている。



福岡方式(準好気性埋立構造)とは、埋立地の底部に栗石と有孔管からなる浸出水(ゴミ汚水)集排水管を設け、自然換気により集水管から埋立地内部へ空気を取り込むことによって微生物によるゴミの分解が促進されるとともに、浸出水を帯水させないようにした構造で速やかに埋

立地の外へ排出させる埋立工法である。最後は下水道につないで処理をする。

ケニアのナイロビから40Kmの所にあるキャンプ県でのゴミ埋立プロジェクトは、メインスポンサーはスウェーデンとなり1haの規模で、工事は2015年3月~11月の9か月間で行った。40人のゴミ拾いをしていた人々を雇い皆で埋立場造りをした。人材育成にもなった。今は、供用を待つ状態である。

今後の展望は、エチオピアでもバヒルダル市で2haの埋立場造りを2016年9月より始める予定である。

また、ケニアではカシアド県でも始める予定である。県知事がキャンプ県の埋立場を見に来て素晴らしいと驚嘆をし始めることになったものである。

日本の環境技術が、世界で貢献をしているのを聞くと嬉しくなった。(佐竹芳郎)

### ●第33回「第33回ハビタットⅢと日本」

国連ハビタット福岡本部と(公財)福岡県国際交流センターによる合同レクチャーシリーズ「ハビタットひろば」が、2016年8月1日14:00~15:00にアクロス福岡3階こくさいひろばで開催された。

今回のテーマは「第33回ハビタットⅢと日本」である。今年10月にエクアドルのキトで開催される「第3回国連人間居住会議」の意義と日本にとっての都市の課題を国連ハビタット福岡本部長、深澤良信氏



がお話されました。

これから35年間で世界で20億人が増え、例えるならば福岡市が1300個できることになる。その際、短期間でインフラの整備や教育、ごみ処理、貧富の格差などの問題がある。そこで、幅広い人間居住に係る課題の解決に向けた国際的な取組方針「New urban agenda」をとりまとめることになる。つまり、各国の政府が共通の認識を持って取り組んでいくことである。

5つの視点がある。それは「国としての都市政策」中央だけでなく、地方の都市化であっても国としての責任をもつことや、住宅政策と都市政策を別になる場合が多いが一体となって開発を行う事等。「制度と規制」きちんとした補償をして土地収用していくことや、地方政府の役割を明確にすること等。「都市計画や都市のデザイン」基本中の基本であり、長く使えるような都市計画にする事等。「都市の経済と発展」商業活動や民間セクターの活動、地方財政の確立等。「計画的な市街地の拡大」移動により人口増加した都市を受け止める計画や、街路の構成、公共空地の確保、区画のデザイン等。また、アジアでは中産階級が増えており、これが経済の推進力にある。これをどう生かしていくかが大事になる。

人間居住に関する国際的な会議でどのような方針で居住に取り組んでいくのかを聞いて、自身も世界の居住の課題や問題について考えるいい機会になりました。(前田直樹)